

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを正しく伝えることが苦手な児童が多い。 自分が感じたことの要点をまとめて、分かりやすく話したり書き表したりすることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって学習に取り組める題材や授業内容の工夫をする。相互評価を通して学びを深める。 日常的活動において、話したり書いたりする機会を増やす。書き方の型を示し、学年相応の書き方ができるように指導する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用し、深く思考させる力を身に付けさせたい。 調べたことを身近なものとして捉え、解決する方法を考える児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に何を調べるのかを意識させ、教科書や資料集の資料を十分かつ効果的に活用して調べ学習を行わせる。（前段階として、資料の見方の指導を徹底する。） めあてに立ち返り、振り返りやまとめを自力で書かせることにより、思考力の育成を目指す。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童は学年に応じた四則計算の能力が身に付いているが、なかなか積み重ならない児童や、しばらく経つと考え方や解き方を忘れてしまう児童が見られる。 文章題を読み取る力や、数直線や図などを使って思考したり表現したりする力には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導を生かし、基礎的な計算の定着を図りながら単元の学習に取り組むクラスと、課題解決を中心としたクラスに分けるなど、児童の実態に応じた指導を行う。 思考力や表現力を伸ばすために、自分の考えを図や表、数直線や式などを用いて考えさせ、説明し合う活動を多く設ける。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 作業を伴う実験は好きな児童が多いが、何を調べるためかという目的意識を継続するのが難しい児童も見られる。 観察や実験から疑問や考えをまとめることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験をする必要性や実験の仮説なども考えさせるなど見通しをもってから実験を行うようにする。 問題→予想→実験→結果→考察→まとめの学習形態を繰り返すことで問題解決的思考力を高める。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 児童の体験に差があり、活動に取り組む姿勢にも差がでてしまう。 活動を楽しむことはできるが、表現することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体での活動と個人での活動を計画的に組み合わせる。また、図書資料やICTも活用する。 言葉での表現、絵画での表現、身体的な表現など様々な様式を取り入れる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技能の定着が図れている児童となかなか積み重なっていない児童がいる。 興味をもって活動を行っているが、主体的に考え音楽表現を創意工夫しようとする思いをもって活動している児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ場面、技能の習得・活用する場面、自分の学びを振り返る場면을効果的に設定していく。 子供の気付きや発想を引き出し、生かす教師側の発問、対話を行う。また交流する場面を多くもち、音や音楽との対話による考えや表現を深められるようにしていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動では興味をもってできているが、課題意識の希薄な児童や、自己判断で活動する児童など、様々なタイプが混在している。 理解力や表現の上で周囲と差があり取り組めない児童について個別に指導する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な表現方法の素材を経験させ個性的で伸びやかな活動ができるようにする。 全体指導では繰り返し指導内容を反復し、視覚的資料などで補った指導を行う。 	

家庭	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に活動に取り組んでいる児童が多いが、玉止め玉結びなど手縫いの基本の技術がマスターできるか否かで、児童によって技術の差が大きく開いている現状がある。 何かの創作物作成やぬい方の練習を行う授業のはじめにすぐに作業に取り掛かれない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの基本的な技術を指導する際は教師側で書画カメラや動画を使い、ポイントごとに説明しながら間違っている所を修正していく。 安全面に注意しながら授業の中でゲーム性のある活動を取り入れていく。 その日に行う児童の活動を授業の始めに明確化させてから授業に取り組ませるようにする。(児童ごとにめあてを書かせたり、教師が見本を見せたりしてから活動を行うなど) 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の運動状況によって、能力に大きく差がある。活動に苦手意識を抱き、消極的になる児童も見られる。 説明や場づくりに時間をかけてしまい、児童の運動時間が十分に確保できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度によって個に応じためあてを設定できる場をつくる。運動が苦手な児童も運動の楽しさや自身の成長を感じられる活動を取り入れていく。 授業の中で一番時間をかけたいことを明確にして、児童が十分に運動できるようにする。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動に取り組み、簡単な単語の練習(挨拶や数、色など生活に関するもの)や、英語を用いたゲームには楽しんで取り組む児童が多い。 書くことや英語での発表に苦手意識をもつ児童が少なくない。 英語表現や語彙の定着に差がある。 外国語の学習経験が少ないことが原因として考えられるので、児童が安心して活動に取り組めるように授業内容を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師がALTと共に、授業に一定の流れを作り、児童に見通しをもたせ、安心して学習に取り組めるようにする。(具体的には、授業の最初は挨拶(Greeting)から始め、chants、game time、writing time、教科書の学習、ふり返りなど。) 児童が、各単元で扱う英単語、英語表現を繰り返し学習できるゲームを行い、学習内容の定着を図っていく。 アルファベットや英単語、英語表現を書く時間を設け、書くことに慣れ親しめるようにする。 児童の発表は、学習した英単語や英語表現の中で取り組めるように内容を工夫する。 	